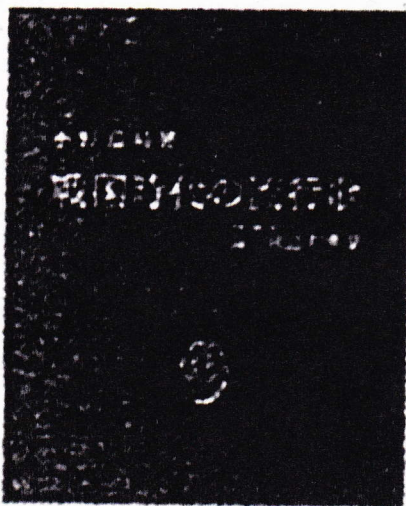


「戦国時代の流行歌 高三隆達の世界」

〈誰か作りし恋の路、いかなる人も踏み迷ふ〉 〈花よ月よと暮らせた
だ、ほどはないもの、うき世は〉
…。ままならぬ恋や、無常の世を刹



那的に生きる切なさを独自の節付けで歌い、戦国末から江戸初期に大流行した一群の歌謡「隆達節」。その担い手だった堺の町衆・高三隆達の実像とは。近世の文

学や芸能、女性の着物の模様にもまで及ぼした影響、現代人の心にもしみる叙情世界は。NHK大河ドラマ『江～姫たちの戦国～』などの歌の場面を監修した研究者が明らかに。
小野恭靖著（中公新書・840円）